

# 島牧村地域公共交通計画の方向性（案）

## 現状・問題点

### 人口減少・少子高齢化

- 平成27年は1,499人の人口に対して、高齢化率は41%
- 今後も人口減少が進み、約20年後の令和22年の推計人口は719人

### 学校の分散配置

- 島牧小学校が原歌地区、中学校が本目地区に立地しており、広域的な分散配置により、スクールバスが運行

### 事業者の運転手不足・経営難

- 交通事業者の運転手は経年的に減少傾向
- 年齢構成は年々高くなっている

### 路線バス利用者の低迷

- 村内を運行している地域間幹線系統である島牧線が利用者の減少に伴い、運行の維持が難しくなっている
- 代替バスは経過措置として日・祝に無償運行しているが、営業路線として有償化に向けた検討が必要

### ハイヤー利用の減少

- 営業実績は少なく、観光や村外からのアクセスを中心に利用
- ハイヤー事業の維持のためにも利用者の確保が必要

### 患者輸送バスの輸送経費の負担が大きい

- 無料で村内の通院を中心として、買い物・役場等への輸送手段として活用
- 有償化に伴う外出抑制が懸念され、運行経費の改善が困難

### 移送サービスの利用ニーズが拡大

- 現状では、介護認定者又は65歳以上の通院者を中心に輸送しているが、村外へのデマンド輸送のニーズが高まっている

### 運転免許非保有者が3割強

- 運転免許を持ったことがない、又は返納した割合が約35%となっており、移動不便者が多い
- 特に75歳以上が免許保有状況が減少

### 外出の際に移動面で6割が困っている

- 公共交通の時間が合わない、家族や知人に頼るしかないがそれぞれ2割強となっており、公共交通の改善が必要

### 移動時間帯は午前中に集中

- 買い物・通院・その他の私用について、いずれも午前中の移動が多く、移動時間に合わせた交通支援が必要

### 島牧線の運行時間の改善が必要

- 運行している時間帯や寿都町での乗継に配慮した運行に対して不満が高く、ダイヤの改善が必要

### 島牧線は寿都高校への通学利用が中心

- 村内の各地区から寿都ターミナルへの利用が多く、目的は通学・帰宅で約9割を占める

### 島牧村代替バスは10時～11時台に利用が集中

- 10:10栄浜発⇒11:30寿都ターミナル発の利用が中心。

## 課題の整理

### 路線バス（島牧線・代替バス）の維持・確保

- 通学面では欠かすことのできない輸送手段の維持
- 代替バスの有償化に向けた検討が必要
- 代替バスの村民の利用に対する助成制度の検討

### 国等の補助の投入等による継続できる手段の確保

- 国の補助金や代替バスの有償化による収入の確保を検討し、運行の健全化を図る

### 寿都ターミナルにおける乗継しやすい時間調整

- 公共交通による村外へのアクセスは寿都ターミナルを経由する必要がある、交通結節点として時間帯の連携が必要

### 買い物等の需要に対応した患者輸送バスの強化

- 診療所を中心とする運行形態を維持しながら、買い物や公共施設、入浴サービスへの循環バスとしての位置づけの明確化（運行時間や経路の明確化）

### 対象者拡大・事業者連携による移送サービスの強化

- 対象者を限定しない、誰もが活用できるデマンドバスとして家から目的地までのきめ細かな公共交通として、輸送サービスの提供
- 人手不足に対応した村内事業者の連携による運行

### 村内で運行している輸送手段の広報活動の強化

- 路線バス、代替バス、ハイヤーのほか、患者輸送バスや移送サービスなど多様な輸送手段があり、これらの情報提供による利用しやすい環境づくりが必要

### 村民が利用し、守り育てる意識の向上

- 公共交通利用への積極性の不足
- 公共交通利用への誘導策の設定

## 基本方針

既存資源を最大限活用した村内外の移動しやすい環境の実現

## 基本目標と施策イメージ（案）

### 路線バスの輸送サービスの維持・確保

- 定時定路線で必要な通学交通の維持
- 日・祝の村民の移動ニーズに即したサービスの維持と有償化の検討  
⇒買い物や部活動における運賃助成
- 観光利用による収入の確保
- 交通結節点として寿都ターミナルにおける接続時間を考慮した運行を検討

### 【路線バスの位置づけ】

- 地域旅客運送サービス継続事業として位置づけ、島牧線の維持が困難になった場合の維持の方向性について継続的に検討

### 輸送手段の役割の明確化と経営の改善

- 患者輸送バスの運行経路や立ち寄り地の明確化と村民の移動ニーズに合わせた循環バスとしての運行の検討
- 移送サービスの対象者（移動不便者）の拡大による村民に対するきめ細かな輸送支援についての検討  
⇒村内移動の維持  
⇒村外移動の多様な利用への検討  
⇒フィーダー補助による経営の健全化  
⇒村内事業者と連携した移動手段の確保

### 利用促進による持続可能な移動支援

- バスマップや時刻表、乗り方などを掲載した広報紙の作成
- 住民意見交換会による意見抽出
- 公共交通の乗り方講座や高齢者危険運転等の講習会の開催
- 交通結節点機能のPR  
⇒乗継時間の明確化による乗継利便性の強化

人口

通学

路線バス・ハイヤー

その他交通手段

アンケート結果

乗降調査